

弔辞 草薙正夫先生

故草薙正夫先生のご葬儀に当たり、日本ヤスパーズ協会を代表して謹んで哀悼の言葉をささげます。

先生は、日本にヤスパーズ哲学が受容される最も早い時期から、翻訳や論文を通じてヤスパーズ哲学の研究と普及に先駆的な役割を果たされました。なかんづく、翻訳を通じてのヤスパーズ哲学の我が国での受容と普及に関しては、先生は、最大の比類なき貢献をして下さいました。昭和18年に出版された『ニーチェ』は、ヤスパーズ哲学の本格的翻訳書の最初期に属するものでしたし、その後の主要な訳書だけでも主著『哲学』の第2巻『実存開明』や『理性と実存』の厳密で正確な翻訳が有りますし、深遠な思想を平明に説いたラジオ講演「哲学12講」（現在では『哲学入門』）の丁寧で平明な翻訳など枚挙にいとまがありません。ヤスパーズのもう一つの主著『真理について』の訳業についても信太、武藤両先生お協力してその基礎を作って下さいました。我が国でのヤスパーズ哲学は、戦後多くの熱心な信奉者によって研究が進められ、その研究成果は世界に誇ることできる水準に有ると思われまますし、この趨勢は、現在でも若い研究者によって継承されていますが、これら戦後のヤスパーズ哲学の研究者、信奉者たちはほとんど例外無しに先生の多くの翻訳書の恩恵を蒙った人たちであります。

我が国で最も早くヤスパーズ思想に共鳴された先生は、武藤光朗先生と私鈴木三郎とともに、日本ヤスパーズ協会を創立されました。思えば、この協会創立のための準備会が京橋のメトロホテルで開催されたのは昭和25年の暮れでした。翌26年の2月23日ヤスパーズ先生の誕生日には発足会

〔追悼〕

が挙行され、先生のご友人金子武蔵先生を理事長とする日本ヤスパース協会が正式に発足しました。それ以後、ほぼ半世紀にわたり、先生は本協会の創立者のお一人として、その温厚で篤実なお人柄を通じて、本協会の運営に主要な役割を果たしてこられました。

現在の私たちの協会は、会員数は100名程度にすぎませんが、年一回の大会を開催し機関誌を発行するなど、先生の学恩を受けた若い人たちを中心に、熱心な研究活動を行っています。特に5年に一度開かれる国際ヤスパース会議には、世界で最も古い伝統と実績を持つヤスパース協会として、この国際会議に共同主催の形で参画してまいりました。来年のボストンでの第4回国際ヤスパース会議にも、直接間接に先生のご薫陶を受けた弟子や孫弟子に当たる研究者数名が参加することになっています。

こうした時に今、先生が亡くなられたことは、私ども協会員一同にとって、特にご一緒に本協会を創立し運営してきた私どもにとっては、大きな痛手でありまことに痛恨の念に堪えません。私どもは、先生のお遺しになった貴重なご業績とご意志を生かして、今後も本協会の初期の目的が達成されるよう努めてまいりたいと存じます。この世界を超越した高みから、どうか私ども後進をお導き下さいますようお願いしながら、お別れの言葉といたします。

平成9年8月5日

日本ヤスパース協会名誉会長 鈴木三郎

(葬儀にて代読 林田新二)